

地理歴史科・公民科のアクティヴ・ラーニング —教室に社会を、教室を社会に—

広島大学 池野範男

1

発表の構成

- 0 問題の所在—考察の視点:
社会系教科の本質と生徒の学びの質
- 1 中等社会系教育の変革に関する仮説
- 2 中等社会系教育の現状と課題
- 3 地理歴史科・公民科教育の改革
 - 3. 1 改革(1)事実や知識の学びから、学びの学習へ
 - 3. 2 改革(2-1)AP教育、IB教育
 - 3. 3 改革(2-2)シティズンシップ教育としての
地理、歴史、公民の教育
- 4 学びの質からの改革動向の検討
- 5 結語—教室の「社会」化と生徒の学びの保証—

2

0 問題の所在

1960年代以降のこれまでの中等社会系教育に関して、
目標＝科学的な社会認識形成
内容＝社会に関する各領域の知識
方法＝講義

2000年以降の中等社会系教育に関して、
目標＝？
内容＝？
方法＝？

2020年学習指導要領の(中等)社会系教育に関して、
目標＝？
内容＝？
方法＝？

3

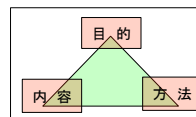
0 問題の所在

研究の方法

考察視点

○中等社会系教育の授業改革の進展

＝目的、内容、方法の論点、「意味のある」教育



目的: 学問教育か市民性教育か
内容: 学問・文化の継承か社会の形成
方法: 教師中心の教授か学習者中心の
学習か

意味: 教育行為における意味
(社会、学習者)

歴史的方法

○現在の起点の設定、改革内容による区分

(「社会科」の教科観・総合社会科、「社会の学習」、
Social Studies)

○教科、教育、授業の発展・進展(progression(s))

4

0 問題の所在

本発表のねらい

○本発表では、中等社会系教育の授業改革動向を仮説的に
設定し、その動向の方向性確認したうえで、
21世紀に入った近年の傾向を、アクティヴ・ラーニングの要素
(協働性、能動性、学びの深さ)から検討し、現行の達成状況
の特質を把握すること。

結論

○3つの特質。

- ①社会科の理念の実現
- ②学習者の活動の保証
- ③学習結果の表出とその達成評価

5

1 中等社会系教育の変革に関する仮説

現状の仮説群 I

仮説1 社会系教育では、その授業を教師中心とした講義を行う
ことで目的を達成する。

仮説2 講義で、教師は社会を科学的にわかるために必要な知識
を教える。その知識の学びは生徒の自主性に任せられる。

仮説3 生徒が教えられる知識を学ばないと、その知識を生徒は
使わない/使えない。

仮説4 生徒は使えない知識を死蔵しているだけで、全く有益では
ない。

仮説5 その結果、社会系教育で教師が教える知識は、生徒には
伝えられるが、使えるようにはならず、置かれているだけである。

6

1 中等社会系教育の変革に関する仮説

変革の仮説群Ⅱ

- 仮説1 社会系教育は**社会に役立つ知識、技能、思考**を教えるものである。
- 仮説2 教師が、社会に関する知識が**社会的効用、有意性**をもって教える。
- 仮説3 生徒たちは、社会の学びにおいて**社会的な働き**として学ぶと、その**知識、技能、思考**を獲得することができる。
- 仮説4 生徒は社会の学びを社会的な働きとして進めると、**現実の社会への適用、問題解決、問題の発見**へと発展させることができる。
- 仮説5 その結果、社会系教育で教師が教える**知識、技能、思考**は、生徒に学び取ることができ、さらに**適用したり応用したり、問題を解決したり発見したり**することができる。

1 中等社会系教育の変革に関する仮説

変革の仮説群Ⅱ

- 新しい変革は、
社会の学びを社会的有意性、働きとして作り出す
生徒の学びに変化をもたらす
一人ひとりの学習の質を保証する

2 中等社会系教育の現状と課題

日本の高校生
①3つの層
②第1層のみ学習習慣
③第2・3層学ばない(勉強しない)
④高校教育の意義の問い直し

2 中等社会系教育の現状と課題

1. 学校教育の転換
 - (1)社会的背景と改革の方向性
 - (2)学校の21世紀の使命
2. 教科・領域の役割とその学習
 - (1)基礎・基本の学習と教科・領域の役割
— 国民的教養の育成
 - (2)教育目標としての「国家及び社会の形成者」と教科・領域の役割
— 資質・能力の育成
3. 教科への問い
社会科(社会系教科)とは何か、何を目指しているのか
の問いを立てることが必要な時代になっている

2 中等社会系教育の現状と課題

現状 ○二極化

- …大学入試対応 地理学準備教育、歴史学準備教育、、、
- …教科書の学習 必要な知識の学習

課題と改革

- …①国民として必要な知識・技能提供
…覚える地理、歴史、政治・経済、、、
- …②社会人になるための地理、歴史。。。
 - …考える(議論する、意思決定する、、、)地理、歴史。。。
 - …役に立つ地理、歴史。。。



2 中等社会系教育の現状と課題



日本の歴史授業

米国の歴史授業

2 中等社会系教育の現状と課題



米国の歴史授業

13

3 社会系教育の改革

方法＝？

14

3 社会系教育の改革

改革の3区分
 (1) 1970-1990
 科目「現代社会」創設と社会科授業改革
 (代表: 大津和子「一本のバナナから」)
 (2) 1990-2000
 地理歴史科公民科への再編(解体)と授業改革
 (代表: 加藤公明「考える日本史」)
 (3) 2000-現在
 AP教育、IB教育、アクティヴ・ラーニング、主権者教育、
 シティズンシップ教育の導入・関連づけと授業改革
 授業改革
 ①教科教育の視点・目的、内容、方法の改革
 ②教育的な意味(意味のある教育)・言語論的転回
 (意味論→構文論→語用論)
事実や知識の学びから、学びの学習、そして、新しい社会系教育へ

15

2 社会系・地理歴史科・公民科教育の改革(2)

授業事例: 公民(広島県立皆実高校 應本哲夫先生)
 単元名 選挙と政治意識(2時間)
 1次: 選挙制度と選挙をめぐる諸問題
 2次: 投票率の低下と政治的無関心(本時)
 本時 目標
 ① 政治的無関心と無党派層の増加と背景と問題点について考えさせる。
 ② 資料やグラフから読み取れることをグループでまとめ発表させる。
 学習過程
 導入 1 インターネット選挙運動の導入
 展開 2 選挙における投票率の推移
 (1) 戦後衆議院議員総選挙の投票率の推移
 (2) 投票率低下の要因(その1)
 終結 3 投票率向上への対策
 (1) インターネット選挙運動の影響
 (2) インターネット選挙運動の可能性
 (3) 投票率向上に向けて

特質
 ①社会の問題から
 ②問い中心に進行
 ③資料豊富
 ④生徒に考えさせる
 ⑤問題、構造、課題、
 対策
 ⑥正解のない問いへの
 生徒の取組

16

2 社会系・地理歴史科・公民科教育の改革(2)



授業事例: 日本史単元「女性と教育-保井コノはどのような問題にぶつかったのか-」

	主な発問	獲得される知識	内容構成の視点
保井コノ	初の女性博士保井コノは、どんな問題に直面したか。	4つの壁	戦前の教育における女性の地位向上の過程
	4つの壁の問題	学校制度の問題点、教育制度の問題点、女性の自立上の問題点、女子高等教育の問題点	
戦後の女性問題	大正時代と今日での変化	権利獲得	女性の地位向上と今日的課題
	女性の教育を受けるときの今日の問題	今日の課題	

17

3つのおたずねです

- (1) 現代社会にはどのような問題があるとおもいますか。その中で最も重大な問題とおもうもの、1つを挙げてください。
問題:
- (2) どうしてそれを最も重大だとおもったのですか、その理由を書いてください。
理由:
- (3) その問題を解決する見通しがあるかどうか、その理由を書いてください。
解決できる理由: 解決がむずかしい理由:

「女性と教育の問題」：
保井コノというひとについて考えよう

- 保井コノ(1880-1971)



みなさんと考えたいこと

Q: 保井コノというひととはどのような壁にぶつかったのだろうか

Q: 彼女はどのようなことをして解決したのか

Q: 今はどのような問題があるのだろうか

保井コノの生涯

1880年2月16日、香川県大川郡三本松村(愛媛県松山市)で実業家の保井忠七とウメの長女として生まれる(第1の壁)
 1892年 三本松尋常小学校卒業(首席)
 1896年 白鳥高等小学校卒業(首席)
 1896年 香川県師範学校(現・香川大学)入学
 1898年 (東京)女子高等師範学校(女子大学)理科入学
 1902年 岐阜県立高等女学校(女子大学)教諭
 物理学の教科書を書く(第2の壁)
 1905年 東京女子高等師範学校研究科入学
 1906年 動物学雑誌に「鯉の消化管について」発表(第3の壁)
 1907年 東京女子高等師範学校(女子大学)教諭
 1911年 「さんせうも」生活史「Annals of Botany」に発表
 1914年 アメリカ留学
 文部省在外研究員としてシカゴ大学、ハーバード大学で学ぶ
 1919年 東京女子高等師範学校教授
 1927年 「日本産亞炭、褐炭及瀝青炭の構造研究」で東京大学で理学博士となる
 1929年 国際細胞学雑誌「キトログリア」編集にたずさわる
 1949年 お茶の水女子大学教授(第4の壁)
 1955年 紫綬褒章受賞
 1971年3月24日 死去

保井コノの4つの壁

第1の壁：
香川県師範学校女子部入学

第2の壁：
高等女学校赴任と物理学教科書執筆

第3の壁：
留学

第4の壁：
女子大学の設立

コノはどのような解決をしたのか

現代にもこのような問題があるのだろうか

現代における「女性と教育の問題」について考えよう



第1の壁：香川県師範学校女子部(入学上級学校)進学

第2の壁：高等女学校赴任と物理学教科書執筆(研究出版)

第3の壁：留学

第4の壁：女子大学の設立(女子教育)

女性が教育を受けることにおける問題

現状はどうだろう

今はどのような問題が残っているのだろうか

現在は男女で上級学校進学問題で平等だと思いますか

隣の人と話し合っ、あなたの考え書いてみよう。

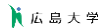


日本史単元「女性と教育—保井コノはどのような問題にぶつかったのか」

- 人物学習の活用
- 二重関係構造
- 1 過去の問題……保井コノ問題

- 2 現在の問題過去……現代の女性問題
- 問題解決とその方法の探究
- 正解のない問い(問題)に取り組む

3 社会系・地理歴史科・公民科教育の改革(2)



1990-2000年代の改革の特質

- 1 社会とその問題を取り上げる
- 2 学習者に構造と課題を分析させ、課題解決に取り組ませる
- 3 課題の解決に学習の意義を持たせる
- 4 課題解決には、正解がない
- 5 **社会を教室に持ち込む**・・・社会の学習

社会をわかることによる、社会の学習

25

3 社会系教育の改革(2) IB教育

IB教育 歴史授業

(東京学芸大学附属中等国際教育学校 山本勝治先生)

トピック 20世紀における戦争の原因と結果

- 5月16日 第一次世界大戦の「政治的影響」と「経済的影響」について
- 5月19日 第一次世界大戦の結果/第一次世界大戦後の平和構築(1919-23)年:ヴェルサイユ条約
- 5月24日 14か条と講和条約、講和条約に向けた連合国のねらい
- 5月26日 国際連盟とヨーロッパ
- 5月30日 第一次世界大戦後の平和構築(1919-23年)/国際連盟とヨーロッパ

3 社会系教育の改革(2) IB教育

5月30日の授業計画

課題: 連合国5ヶ国(USA、UK、フランス、イタリア、日本)による模擬的な国際会議を想定して議論する。

各国の立場でバリ講和会議や国際連盟に関わる決定事項、方針(政策)等を取り上げ、その理由やねらいを主張する。

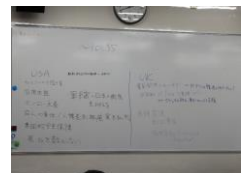
発表準備(ホワイトボードにメモ)10分→各国主張を発表3分×4国際会議を想定し、他国の主張について批判したり賛同したりしながら議論する・・・10分

客観的な立場から、会議の議論を捉え直し、ヴェルサイユ体制について批判的に評価を加える。・・・10分

☆本日の議論で浮かび上がってきた論点や気付いたこと等、振り返ってまとめておく。・・・課題

箇条書きによるメモだけではなく、Paper2 Paper3の答案を想定し、構成を整理してエッセイとしてまとめる習慣を!

3 社会系教育の改革(2) IB教育



28

3 社会系教育の改革(2) IB教育

歴史研究

規準A 資料の説明と分析 規準B 研究 規準C 考察

規準B 研究(一部のみ)

(0点) 基準に達していない。

1-3点 研究が明瞭さと一貫性に欠け、構成が認められないか、認められるとしても研究の趣旨から外れている。

批判的分析がほとんど(あるいはまったく)行われておらず、ほとんどが一般論や根拠の不十分な主張で構成されている。

資料から得られる根拠について言及しているが、その根拠の分析は行われていない。

4-6点 研究を体系的に構成しようとした試みが見受けられるが、部分的なレベルにとどまっていたり、明瞭さと一貫性を欠いている。・・・

7-9点 研究はおおむね明瞭で、まとまった構成になっている。ただし、ところどころ繰り返しや不明瞭が見られる。・・・

10-12点 研究はおおむね明瞭で、まとまった構成になっている。ただし、ところどころ繰り返しや不明瞭が見られる場合もある。・・・

13-15点 研究は明瞭で一貫性もあり、効果的に構成されている。・・・

3 社会系教育の改革(3) シティズンシップ教育

地理授業: シティズンシップ教育(京都市社会科教育研究会)

(京都市立洛陽工業高校)

小単元「京都にもう1本鉄道をひくならどこにする？」

(政治的アプローチ)

単元名 身近な地域の課題と地域調査

1時間目・・・地域調査の基本的事項の確認、特に目的・課題の設定

2時間目・・・事前調査① 対象地域の現状把握、解決すべき課題の優先順位づけ

3時間目・・・事前調査② 課題解決手段の検討

4時間目～5時間目・・・現地調査の代替として、グループワーク「京都にもう1本鉄道をひくならどこにする？」

6時間目(本時)・・・グループワークの続きプレゼン準備

7時間目・・・プレゼンテーションコンペ

8時間目・・・コンペの結果発表とフィードバック

30

3 社会系教育の改革(3) シティズンシップ教育



31

3 社会系教育の改革(3)

2000年一現在の改革(3)の特質

- 1 社会とその問題を取り上げる
- 2 学習者に構造と課題を分析させ、課題解決に取り組ませる
- 3 課題の解決に学習の意義を持たせる
- 4 課題解決には、正解がない
- 5 **教室を社会にする**・・・社会の学習

社会を作ることによる、社会の学習

32

4 学びの質からの改革動向の検討

考察視点: 教科の本質と学びの質

○高校社会系教育の授業改革の進展

= 目的、内容、方法の論点、「意味のある」教育

○能動性、協働性、深さ

『論点整理』

「社会に開かれた教育課程」、資質・能力の育成

アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント

「審議のまとめ(案)のポイント 見方・考え方の採用

○目標記述の統一

「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての**資質・能力を**」(社会科・地理歴史科・公民科)

○教科の学習構造を統一した。

33

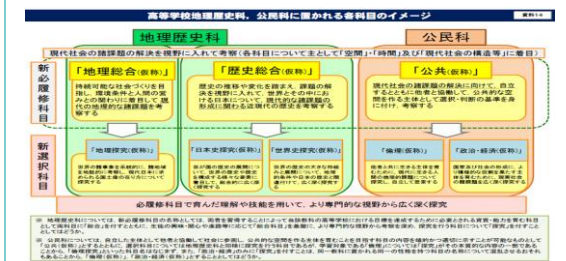
社会形成者の育成(1)

学校とそのカリキュラムにおける問題

教科の問題(2) 学問準拠型教科構造における社会科(地理歴史科・公民科)

MQ2 次期学習指導要領において、資質・能力の目標である社会の担い手の形成(国家及び社会の形成者の育成)は

①どこで、②何を、③どのように行うのか。



34

社会形成者の育成(1)

学校とそのカリキュラムにおける問題

教科の問題(2) 学問準拠型教科構造における社会科(地理歴史科・公民科)

MQ2 次期学習指導要領において、資質・能力の目標である社会の担い手の形成(国家及び社会の形成者の育成)は

①どこで、②何を、③どのように行うのか。



35

教科の問題(2) 公民科「公共(仮称)」

① 第一には、自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、他者との協働により国家や社会など**公共的な空間を作る主体であるということ**を**学ぶ**とともに、古今東西の先人の取組、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる**概念や理論**を、また、公共的な空間における**基本的原理(民主主義、法の支配等)を理解し**、以下の大項目の学習につなげることが適当である。

② 第二には、小・中学校社会科で習得した**知識等を基盤に**、第一で**身に付けた資質・能力を活用して**現実社会の諸課題を、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報の発信・受信主体として**自ら見出すとともに、話し合いなども行い考察、構想する学習を行う**ことが適当である。

③ 第三には、前二つの学習を踏まえて、持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりに向けて、**諸課題の解決に向けて構想する力**、合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして**議論する力などを育む**ことをねらいとして、現実社会の諸課題、例えば、公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力などを探究する学習を行う構成とすることが適当である。

知識習得から、主体発見を経て、考察構想、探究へ

並列順序の学習?

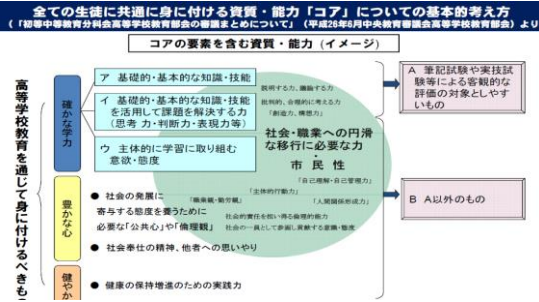
36

資質・能力の育成(2)

学校とそのカリキュラムにおける資質・能力の育成問題

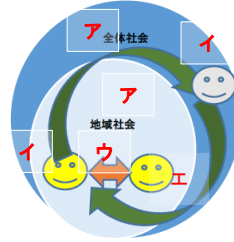
MQ3 次期学習指導要領において、社会の担い手の形成(科目「公共」)はどのような特質を持っているのか。

②シティズンシップ教育としての特質



資質・能力の育成(2)

社会との関係におけるシティズンシップ教育



- ア 社会そのものを取り扱う
- イ 社会と構成員との関係を取り扱う
- ウ 社会における構成員間の関係を取り扱う
- エ 構成員としての私を取り扱う

資質・能力の育成(2)

学校とそのカリキュラムにおける資質・能力の育成問題

MQ3 次期学習指導要領において、社会の担い手の形成(科目「公共」)はどのような特質を持っているのか。

②シティズンシップ教育としての特質

- 主体的な社会参画に必要な力を、人間としての在り方生き方の考察と関わらせながら実践的に育むものとして設定された(「論点整理」36頁)。
- 人間としての在り方生き方を教えるという従来の枠組み(国民的教養としての公民教育)に留まっている。
- 社会に関かれた教育課程が最も体現し、学校を社会を引き入れたり、学校を社会にしたりすることが必要であろう。

社会そのもの、社会と構成員の関係の学習の欠落

資質・能力の育成(3)③教科としての特質

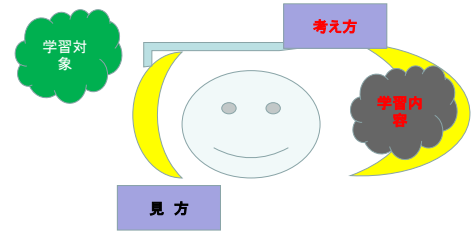
- 見方・考え方 見方＝視点 考え方＝思考の枠組
 「社会的な見方・考え方は、課題を追及したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」であり、小、中、高等学校と校種が上がるに連れて視点の質やそれを生かした問いの質は高まるものと考えられる。」



資質・能力の育成(3)③教科としての特質

- 見方・考え方 見方＝視点 考え方＝思考の枠組
 「社会的な見方・考え方は、課題を追及したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」であり、小、中、高等学校と校種が上がるに連れて視点の質やそれを生かした問いの質は高まるものと考えられる。」
- 位置や空間的な広がり の視点
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用 など
 「どのように広がっているのだろうか」
 ・なぜこの場所に集まっているのだろうか
 ・地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろうか」
- 考察構想した結果
 「いくつかの組立工場を**中心**に部品工場が集まり、工業が盛んな地域を形成して」
 ・駅の周囲は**交通の結節点**なので人が多いため商業施設が集まっている
 ・国土の**地理的位置**や地形、台風などの**自然条件**によって気候は異なる」

資質・能力の育成(3)③教科としての特質



資質・能力の育成(3)③教科としての特質

○中学校地理的分野

社会的現象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

考察

地域の特色や地域相互の関連を多面的・多角的に考察する力

構想

地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

43

資質・能力の育成(3)③教科としての特質

○中学校地理的分野

問い

それは、どこに位置するだろう

それは、どのように分布しているだろう

そこは、どのような場所だろう

そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう

そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろう

そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう

その地域は、どのような特徴があるだろう

それは、(どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求める、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる)べきなのだろう

44

資質・能力の育成(3)③教科としての特質

考察・構想した結果としての、知識

地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること

(具体例; 明石市は大阪市の西にあり、その市立天文学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にある)

特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること(具体例; アマゾン川流域の一年中雨が多く降る地域には、常緑の密林地帯が広がっている)

地球上の各地は、固有の性格があること(具体例; 広島市の沿岸部は、低平な三角州となっている)

人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること

地域には、地域的特色を踏まえた、よりよい姿が求められること

(具体例; 地震や豪雨、台風など自然災害を受けることの多い日本では、被害を最小限に食い止めるため、各地の自然環境に応じた、災害に強いまちづくりを進めることが大切である)

45

4 学びの質からの改革動向の検討

①見方・考え方の採用とその適用

○社会科の学習が、見方・考え方の導入で、特定の内容の学習を確実に遂行させるものであり、質保証を促進する。

○視点＝レンズが知識や学問性によって保証されると、掛けた外的メガネは成長させることができる。

○外的レンズは、一方で、

1) 固定的であること、

2) 学習者の自発性や能動性を軽視しがちになること、

3) 特定内容の学習に特化し。

4) より高度な深い学びへの回路を閉ざしやすい

○肉眼レンズの質的成長は保証されていない。

②考察・構想の保証

○視点の適用からその発展

4 学びの質からの改革動向の検討

歴史研究

規準A 資料の説明と分析 規準B 研究 規準C 考察

規準B 研究(一部のみ)

(0点) 基準に達していない。

1-3点 研究が明瞭さと一貫性に欠け、構成が認められないか、認められるとしても研究の趣旨から外れている。

4-6点 研究を体系的に構成しようとした試みが見受けられるが、部分的なレベルにとどまっていて、明瞭さと一貫性を欠いている。...

7-9点 研究はおおむね明瞭で、まとまった構成になっている。ただし、ところどころ繰り返しや不明瞭が見られる。...

10-12点 研究はおおむね明瞭で、まとまった構成になっている。ただし、ところどころ繰り返しや不明瞭が見られる場合もある。...

13-15点 研究は明瞭で一貫性もあり、効果的に構成されている。...

社会との関係づくり、目標-内容-方法の連携、評価??

47

5 結論

本発表の考察・検討結果

近年の中等社会系の授業改革は、

(1) 社会の学習を、教室に社会を持ち込むことから、**教室を社会にすること**へ進めている。

(2) ①社会科の理念の実現、②学習者の活動の保証、③学習結果の表出とその達成評価を行ってきている。

(3) アクティヴ・ラーニングにおける要素、協働性、能動性は、満たしているが、**質的深さは心がけているが、保証をしていない。**

(4) さらなる課題は

1) 能動性、協働性が「強制」性をもっていること、

2) 学びの質を**評価する方略**をもっていないこと。

48